

令和元年度の締めくくりにあたって

1. 令和元年度 後期終業式あいさつ

平成から令和に変わった新しい年度が終わろうとしています。年度末を迎え、2月下旬から世界的に流行している新型コロナウイルスの感染拡大防止策により、これまで普通に行われてきた学校生活が大きく影響を受けることとなりました。在校生や来賓の参加を見合わせた卒業式、多くの都道府県や市町村での臨時休校、部活動の禁止、学級を超えての集会の制限、そして、本日こうして校内放送により行うこととなった終業式とこの後の離任式など、非日常的な対応により学校生活や家庭での生活を行うことが求められているような状況です。

今後、専門家会議等の意見を受けて、政府がどのような対策を取り、県がどうするかによっても今後の対応が異なってきますが、どうか皆さん正しい情報を得て、偽の情報や未知のウイルスによる不安に惑わされることなく、冷静に正しく行動するようにしてください。

世界的に流行している新型コロナウイルスについて、イタリアの高校の校長先生が生徒たちに、次のようなメッセージを送っています。

「社会生活や人間関係を汚染するものこそが、新型コロナウイルスがもたらす最大の脅威だ」。これは日本でも、ドラッグストアの店員が「コロナより人間が怖い」といっていたことを裏付けるものです。

新型コロナウイルスの脅威はそれが未知のウイルスで対処法が確立していないことや、感染経路が判明されていないこと、治療法が確立されていないことなどが恐ろしいことなのですが、それ以上に新型コロナウイルスが治安の悪さを助長したり、社会生活での混乱や人間関係を壊すことの方がもっと恐ろしいということです。

車内で咳をただけで怒号が飛び、ドラッグストアの前ではマスク購入を巡る取っ組み合いのけんかが起きている。電車の中で咳をしたら「周りからどンドン人がいなくなり、殺されそうな目で見られた」という人もいます。私は花粉症ですとアピールするバッジが登場し、中華街にはアジア系外国人を罵倒するビラが送りつけられ、アメリカでは銃の販売に行列ができる。

「目に見えない敵からの脅威を感じているときは、仲間なのに潜在的な侵略者だと見なしてしまう危険性がある」と、このイタリアの校長先生は言っています。

未知なるものに不安を感じるのは、人として当然の反応です。しかし、その未知なるものへの反応が、過剰になればなるほど、SNSなどを利用して間違った情報を過信してしまうほど人権侵害や、“常軌を逸した言動”は繰り返されていきます。

未知のウイルスで、不安はありますが、正しい情報を入手し、正しい対策、正しい行動をみんなでを行い、この非常事態を乗り切ってほしいと思います。本日の終業式で令和元年度の全ての授業・行事がおわり、4月8日には新学期が始まります。この1年を締めくくり、令和2年度が生徒の皆さんにとってさらなる飛躍の年になるよう、そして一刻も早い新型コロナウイルス流行が終息し、日常の生活が戻ってくることを祈ってあいさつとします。

2. 離任式

島根県教育委員会は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、学級を超えて多くの生徒が集まる学校行事を実施しないとしています。そして、終業式、離任式は校内放送システムを利用した開催を検討することを各校に依頼しています。本校も終業式は教室で校内放送により、離任式は実施せず、離任者から邇摩高生へのラストメッセージということで、中庭を挟んで離任者が教室に向かってメッセージを伝えるという方法で行いました。天気にも恵まれそれぞれの教職員の思いが生徒に伝えられ、感動のラストメッセージの時間となりました。

